

国立精神・神経医療研究センター病院にて 精神科・薬物依存症専門外来を受診された方へ

このたび、国立精神・神経医療研究センター病院精神科薬物依存症専門外来で受診した際の診療情報等の一部について、下記の研究に対し提供を行います。この研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意をいただくかわりに、利用目的等を含む研究の実施について、情報を公開いたします。

この研究に対し診療情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報等を利用・提供して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供してほしくないと申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2023 年 1 月 1 日より2026 年 6 月 30 日までの間に、当院の精神科薬物依存症専門外来で初回診察を受けた方

2. 試料情報の提供のみを行う者の機関名・所属・氏名

機関名：国立精神・神経医療研究センター病院

所属・氏名：戸田 達史（病院長）

3. 試料・情報を提供する研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名：薬物依存症外来受診患者の使用物質別の臨床的特徴についての後方視研究

研究期間：研究開始日～2027 年 12 月 31 日まで

研究代表者（研究責任者）：国立精神・神経医療研究センター 沖田恭治

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

情報等：年代、性別、教育歴、就労状況、使用経験のある薬物の種類、精神科治療歴、自助グループやダルクなどの民間依存症回復施設利用歴、精神医学的診断名、その他問診票に記載の内容
(取得方法) 診療録から入手

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

最近、薬物依存症で治療を受けている人の半分は、ベンゾジアゼピン系の抗不安薬・睡眠薬や、市販の鎮咳薬や感冒薬などの医薬品の使用の問題を抱えています。また、大麻関連物質を使う人による受診も増えています。一方で、集団精神療法などの薬物依存症の治療は、医療機関や自助グループなど

で広く行われていますが、医薬品や大麻関連物質に依存している人には、この治療法があまり効果的ではなく、そのため、治療を続けるのが難しい人も多いです。治療法の改良や開発も考えられていますが、そのためには、もっと詳しい情報が必要です。

- * 本研究では、対象となる方の情報を電子カルテや問診票などの診療録から収集し、解析します。対象データから個人名など個人を特定できる情報を削除し、研究用の符号をつけることで、個人を特定できないように加工して、管理されます。
- * なお、調査データは、国立精神・神経医療研究センターに所属する研究者のみが扱い、外部の研究者が利用することはありません。

提供を行う際には、研究計画に従い、診療情報等の個人情報加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。

6. 利用又は提供を開始する予定日

研究開始日を予定しています。

7. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

機関名：国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

所属：病院 精神診療部 氏名：沖田恭治

電話番号：042-341-2711

e-mail：kokita※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）